

広報 **えびな**

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口

(3月1日現在)

世帯 44,979 (+88)

人口 120,266人 (+74)

男 61,262人 (+22)

女 59,004人 (+52)

自治会の人たちを前に豪快かつ繊細な筆さばきを披露する古泉茂さん(中央)



えびな模様…^{かみ ごう ち}上河内から

「地域への思い」 筆に込め

達人が語る伝統の団結心

「筆一本で太い線も細い線も書き分ける、時には筆先を裏返してかすれた感じを表現したりもするんですよ。制作中の書を前にこう話しているのは、上河内に在住の古泉茂さん(89歳)。

30年ほど前、脚を患った茂さんは療養中に書の魅力と出会い、以来その道を歩んできました。また、達磨大師の墨絵を描く「縁起絵師」としての腕も一流。絵姿のほかに「七転八起(しちてんはつき)」と書き添えるのが特徴で、書道とともに茂さんのライフワークになっています。

「脚のため農業を離れてから、ずっと趣味の世界を楽しませていただいたので」と、地域の方々のため筆を振るうこともしばしばとか。上河内の自治会館では、茂さんの筆になる看板や幅一間もある達磨絵が、訪れる人々の目を楽ませています。

「昔から、田植えが早く終われば他の遅れた家を手伝うという風に、団結心が強い地区」と、上河内の印象を話す茂さん。ご自身も若いころ、農作業へ畜力(牛馬の力)を導入するため、地域内で奔走したそうです。「仲間同士が助け合いながら指導したおかげで、牛や馬を飼いはじめた農家が増え、とてもうれしかったことを覚えています」。

かつて上河内には、家同士で作った「講中」という相互扶助の組織がありました。「関東大震災でわが家の土蔵が倒壊したとき、講中の各家が自身の難儀にもかかわらず、総出で復旧に当たったそうです」とは、奥様のトシエさん(84歳)。今なお敷地に建つ土蔵は、上河内唯一のものであるとともに、地域の団結の証にもなっています。

茂さんの書に見入っているのは、上河内自治会の方々。「たとえ少しずつでも、地域が前進できるように頑張りたい…そんな気持ちになりますね」。達人の墨跡からは、「七転八起」で団結してきた地域の歴史が、自然に伝わるのかもしれない。

約2年にわたる市内各地域を紹介してきた「えびな模様」。次回からは海老名のさまざまな話題を取り上げます。

上河内アラカルト

◎人口(3月1日現在)

208人
(男91人・女117人)

◎世帯

59世帯

◎面積

0.42平方^{キロ}メートル
【市全面積 26.48平方^{キロ}メートル】

◎地名の由来

「河内」ははんらんする川の内になってしまう原の意で、「上」はその位置を表示。かつては本郷地区の一部で、中河内・杉久保とともに分離したと伝えられる。